

# 百年の負債

## 岐阜市・産廃不法投棄事件

「おー」と歓声にも似たどよめきに包まれた。放射性物質を含む埋め戻し材「フェロシルト」をめぐり、撤去を求める住民と拒否する製造元・石原産業(大阪市)の対立が続く。長引きかけていた「廃棄物か、それともリサイクル品か」の議論は突然、終止符を打った。質問で市に「撤去させろ」と訴えようとした議員らが一瞬目を疑う報告だった。「今日、フェロシルトの撤去が決まりました」。九日の瑞浪市議会、森川修三助役が切り出すと、議場は

### 第5部 「負債の行方」 ①

めた。放射性物質を含むが、三重県は「健康に影響はない」と判断し、〇くともあり、各地で撤去を求める住民運動に火をつけて認定した。が、三重県は「健康に影響はない」と判断し、〇くともあり、各地で撤去を求める住民運動に火をつけて認定した。

# 「循環型社会」に盲点

## フェロシルト問題

「おー」と歓声にも似たどよめきに包まれた。放射性物質を含む埋め戻し材「フェロシルト」をめぐり、撤去を求める住民と拒否する製造元・石原産業(大阪市)の対立が続く。長引きかけていた「廃棄物か、それともリサイクル品か」の議論は突然、終止符を打った。質問で市に「撤去させろ」と訴えようとした議員らが一瞬目を疑う報告だった。「今日、フェロシルトの撤去が決まりました」。九日の瑞浪市議会、森川修三助役が切り出すと、議場は

ていた議員が、思わず顔をほころばせた。フェロシルトは、酸化チタンの製造過程で生まれる廃棄物を基にした製品で、石こうや酸化鉄が主成分。以前は埋め立て処分されていたが、石原産業は「ほかの土壌となじみ、土地造成時の埋め戻しに適している」と、二〇〇一(平成十三)年から東海三県で販売を始めた。だが昨年十二月、愛知県瀬戸市で大量に野積みされた問題に。県内でも瑞浪市や土岐市に持ち込まれ、住民の反発を受け、森では今年一月ごろ、住宅地から撤去された。この業者は瑞浪市、土岐市、瀬戸市の取引にもかかわっているという。フェロシルトには放射性物質が含まれるという。この業者は本紙に「ケナフは育て、見とれ」と話した。そして九日、放射線ではなく重金属が騒動を終わらせた。住民の苦情を受けて調べていた岐阜県は、県内の使用個所のう



発行所  
岐阜新聞社  
岐阜市今小町10番地  
電話058-264-1151(代)  
〒500-8577(専用番号)  
©岐阜新聞社 2005



フェロシルトが使われた造成地。廃棄物カリサイクル品かで議論が分かれた＝可児市大森

会のため、再資源化を進めるという目的で開発した商品」とし、いまでも製品の安全性を主張する。一方、放射能のゴミはいらない―市民ネット・岐阜の兼松秀代表は「市民が不安を感じる物を商品として扱い、経済性のないところに物が動く不可解な点もあった。ごみにすべき物はすべきで、企業モラルが問われる」と訴える。循環型社会とは何か、慎重に見つめ直す必要があるようだ。

◇

を悔やんだ。  
ただ問題は解決したわけではない。石原産業が販売した量は約七十万トで、県外十カ所にも堆積(たいせき)。他県でも撤去を求める動きは続き、うだ。さらに業者は使用

に際し、三重県の認定をお墨付きとして利用した。今月に入り、石原産業が自ら取り下げ願いを提出し、認定は取り消され、制度の在り方にも疑問が投げ掛けられた。石原産業は「循環型社

岐阜市椿洞の不法投棄事件は、解決方法の議論が本格化し始めている。不法投棄の背景にあるごみ問題を、適正処理、リサイクル、資源ごみ輸出などの現場から取材し、事件の教訓を探る。  
(産廃問題取材班)

岐阜新聞社は産廃問題と企画に対する意見、要望、情報などをファクスとメールで募っています。ファクスは058(265)2769。メールはhiroba@gifu-np.co.jp